



発行所 電波新聞社
東京本社
東京都品川区東五反田1-11
15 電話 41-8775
⑧03(3445)6111(大代表)
大阪本社
大阪市中央区北區3-2-25
(京阪淀屋橋ビル5階) 電話 41-0841
⑧06(6203)3361(大代表)
西部本社
福岡市博多区博多駅前2-13
-23(昭和ビル) 電話 41-0011
⑧02(43)7411(大代表)
©電波新聞社 2018

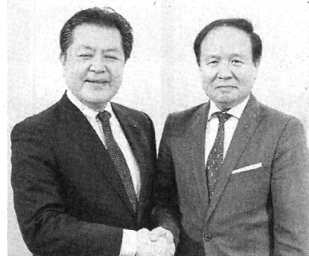
日本電計

車載カメラモニター試験室開設

テュフ日本法人と業務提携

計測機器の総合商社・日本電計はこのほど、かねて準備を進めていた車載用カメラモニターシステム試験設備「日本電計横浜試験室」を開設した。「Denkei LAB Yokohama」と呼ばれる試験室は、同社が自動車業界に向けた新たな取り組みとして開設を急いでいた。

同試験室は横浜市港北区のリーダー電子本

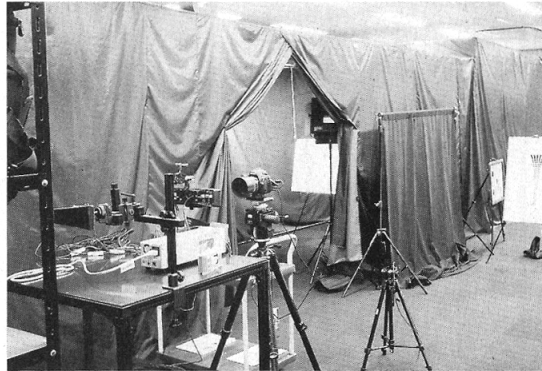


メラモニターシステム（CMS）
ランズ部長 試験を行う。既に多くの関連企業の関係者から、このラボの使用に関する問い合わせが来ているという。

今回のCMS試験室の開設は国際基準（UN-R46）「間接視界に関する協定規則」の認証を行う第三者機関・テュフラインランド社（独ゲルマンの日本法人テュフラインランドジャパンとの業務提携により行われた。

方計の暗室が2室、試験加工室そして会議室で構成され、一つ目の暗室は主に輝度測定、二つ目の暗室はMTF（モジユラ・トランスファファンクション）測定室となっている。

メーカーはこの場合、テュフラインランド社による適合性の認証が不可欠となるが、このCMS試験室を利用していたら、確認修得テスト前の開発・設計段階でUN-R46の要求項目のテスト確認ができ、製品の問題点や改善点を早期に把握することで、開発時間や費用を大幅に削減できる」と話している。



車載用カメラモニターシステム試験設備
「日本電計横浜試験室」を開設（試験暗室）

CMS試験室で利用できる計測機器は、鮮明度・被写界深度、輝度とコントラストの返還、点光源、時間挙動などとなっている。例えば「鮮明度・被写界深度」では、人間の視力に相当する機能をテスト。人間の目がピントを調整するように、CMSが問題なく調整できるかを確認する計測器がそろえられており、同認証機関とほぼ同一の設備を設置している。

「間接視界に関する協定規則」の中で、ミラーの代替えとしてカメラを使ったモニターシステムに関するルールを定めたもの。カメラモニターシステムは、ミラーレスやドアクミラーの小型化は自動車メーカーにとって大きなメリットがあり、実用化に向けて研究開発が積極的に行われている。自動車

CMS試験室は12坪